

石高神社示示報

石高神社の年間行事

現在、石高神社では、次の様な年間行事を行なっていますので、どうぞお参りください。

◎ 歳旦祭

一月一日午前零時より歳旦祭を行ないます。新年祈禱は、一日から三日の昼致します。

◎ 厄ばらい

二月一日が厄ばらいの日ですが、正月その他の休祭日にも致します。厄歳、祝歳の方はお参りください。

◎ 春例大祭

五月中旬の日曜日春例大祭日としております。午前十時ごろから祭典を行ない、五穀豊じょう、氏子中安全を祈願致します。

◎ 輪くぐり(夏祭り)

七月三十一日晚。年の前半の罪けがれをほらい、疫病から身を守るお祭りです。ひとがたに、家中の生まれ歳の干支、男女の別等を書いて、身を拭って夕方六時から九時ごろにお参りください。夜店も出てにぎや

第二号 昭和六十一年十二月十五日発行

題字 伊久 彰雲

発行者 宮司 高原 章兆

かです。

◎ 秋祭り氏参り

十月三日から五日が秋祭りですが、三日の晩が氏参りになっており、夜店やみこし等でにぎわいます。晩六時から九時ごろにお参りください。

◎ 秋例大祭

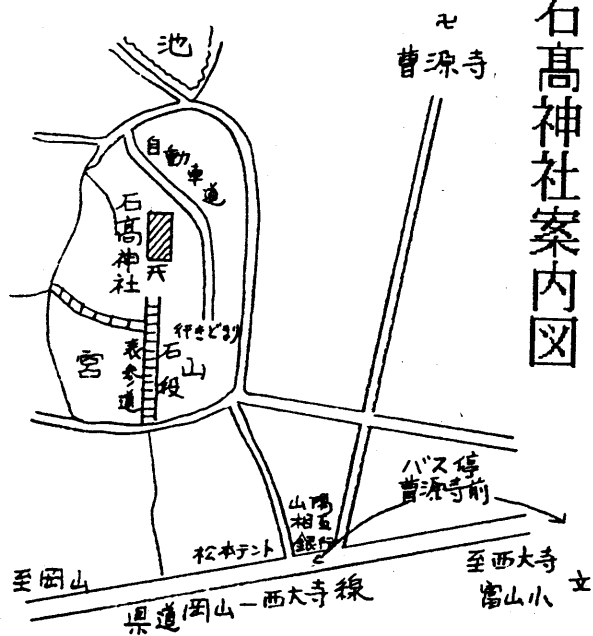
十月五日午前十時ごろから祭典を行ないます。収穫を感謝する祭ですが、その準備の開始期のほうに重点が移動した結果、実際の収穫より早目の時期になっており、県内でも特に早い方です。

◎ 七五三詣

ひも落としといわれるように、紐のついた着物から帯を締めはじめの儀礼です。氏神様にお参りし、神様にここまで成長したお礼をいい、以後の無病息災を祈願してください。

その他、宮参り、当病平癒祈願、家祈禱、地鎮祭等、随時致しておりますが、兼務の為日曜、早朝等にご無理を申し上げます。

石高神社案内図



末社紹介 ② 天 稻荷神社

京都市伏見区に鎮座の稻荷神社をまつる。東側の奥に石の鳥居を構えており、備陽記にも載っている代表的末社である。一切の食料をつかさどり、殊にその根源たる稻穀の生産豊穰を守護せられる神の倉稲魂神（うがのみたまのかみ）を主神としている。一名、御食津神（みけつのかみ）を三狐（みけつ）と書き、インド經典中のだき尼天と合するに至り、だき尼が白狐に乗る姿に基づき、稻荷信仰と結びつけた開運の神とした流行神とは異なる。

御寄付のお願い

石高神社は、現在の地に遷座して三百年になりますが、至るところ老朽化しております。幣殿の屋根は腐って落ちかけ、建っているだけです。表参道では、玉垣の石が倒れたり、ぐらついており、大変危険な状態です。道路に面した石垣も西側は、昨年修理しましたが、東側がまだ残っています。

これらの箇所は、大変危険でもありますし、大きな事故が起こつてからは遅すぎますので、早急に修理する必要があります。しかし、今のところ予算面から、着工の見通しが全くついておりません。究極的には、氏子の皆様の御寄付をお願いしなくてはなりません。その節は、よろしく御願ひ申し上げます。

後記

石高神社をもっと知っていただく為に、さる七月に社報を創刊し、第二号をむかえました。今回より町内会のご協力をいただいで約四千戸に配布される事になり、ありがたく思っております。引き続き年二回の発行を予定していますので、よろしく御願ひ致します。